

できることからはじめよう、 ごみのダイエット。

わたしたちは今、ありとあらゆる多くのモノに囲まれて生活しています。

しかし、そんな豊かな消費生活の裏で、大量のごみが捨てられている現実があります。また、ごみの処理には多くの費用がかかっています。ごみを減らすことは、そうした費用を抑える効果もあります。

ムダなごみを出さない、つくらない「ごみのダイエット」はじめてみませんか？



まちのごみの現状は？

まちから出るごみは、年間1人あたり約307^{キロ}！

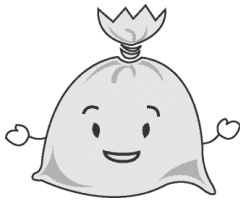
日野町から出たごみは、可燃ごみはクリーンセンターくぬぎの森（黒坂）で、不燃ごみやリサイクルできるごみは、主に西部広域行政管理組合リサイクルプラザ・エコスラグセンター（伯耆町）で処理されています。

平成17年度の日野町から出たごみは約1295^{トン}。これをまちの人口で割ると、1人あたり年間で約307^{キロ}のごみを出していることとなります。
ごみ総量のうち、クリーンセンターくぬぎの森に搬入される可燃ごみは、平成17年度で約1043^{トン}で、センター内で焼却処分されます。同じく、リサイクルプラザ・エコスラグセンターに搬入された不燃ごみ、資源ごみ

は約251^{トン}。これらは可能な限り再資源化され、残り埋設処理されます。

「エコスラグ」とは、ごみや下水汚泥を1200℃以上の高温で溶かしたもので、石や砂の代わりに道路などの土木資材などに有効利用することができるとされています。

1人あたり約3万9000円のごみ処理には多くの費用がかかります。また、ごみの処理には、西部広域行政管理組合への負担金など、年間で約1億6364万円（平成17年度）の費用がかかっています。これは、換算すると町民1人あたり約3万8840円となります。



ムダなごみを多く出している日野町

クリーンセンターくぬぎの森には、日野町と江府町の可燃ごみが搬入されますが、両町を比較すると、江府町民1人あたりの1か月の可燃ごみの量が約14・8^{キロ}なのに対し、日野町では約20・6^{キロ}と多くなっています。

また、一般廃棄物のリサイクル率（平成16年度）も15%未満と、県内で最も低いレベルになっています。これらのことから、日野町はごみを出す量が多いだけでなく、リサイクルされない「ムダなごみ」を多く出していることがわかります。

ムダなごみを出さないため

まちが抱える「ごみ問題」

ごみの量の合計は、各家庭及び事業所から出たごみの合計です。

には、ごみを出す際の分別の徹底を欠かすことはできません。

しかし、きちんと分別されていないと、リサイクルセンターで収集したごみを手作業で分別しなおさなければなりません。これは大きな手間になるうえ、そのための費用も多くなることにもなります。

また、生ごみの水気が多いと、焼却する際の炉の温度が下がり、効率よく焼却することができなくなります。火力を上げるための燃料も余計にかかってしまいます。

減らない不法投棄

山林や原野などに勝手にごみを捨てる「不法投棄」は、町内でもいまだに後を絶ちません。

不法投棄は、景観にそぐわないだけでなく、有害物質な



どが流れ出して自然環境に深刻な被害をもたらすことも考えられます。

不法投棄は、5年以下の懲役または1000万円（法人には1億円まで加重ができる）以下の罰金刑などが科せられる、れっきとした犯罪です。不法投棄を発見したら、黒坂警察署（電話74 0110）または役場産業振興課（電話72 2101）まで通報しましょう。